

又 信



第103号

経済学部 創立100周年 記念号

ゆう しん かい かい 報
又 信 会 会 報
令和5年12月発行



〔記念式典 式辞 学長 上田夏生〕

高松高等商業学校
高松経済専門学校

香川大学 経済学部
香川大学 法学部
香川大学 商業短期大学部

経済学部 創立100周年 記念行事

令和5年（2023年）11月11日（土）

時刻	行事	開催場所
11：00～11：30	記念碑除幕式	経済学部構内 総合教育棟前
13：30～15：00	記念講演会	経済学部構内 総合教育棟
16：00～17：10	記念式典	JRホテルクレメント高松 3階「玉藻の間」
17：30～19：30	記念祝賀会	JRホテルクレメント高松 3階「飛天の間」

《 記念碑除幕式・式次第 》

1. 開式の辞 事務課 課 長 入屋 充
2. 献 辞 又信会 会 長 対馬 健三
3. 謝 辞 経済学部 学部長 長山 貴之
4. 除 幕
除幕者 経済学部 ：長山経済学部長、青木副学部長
又信会 ：対馬会長、石川副会長
5. 集合写真撮影
6. 閉式宣言

《 記念式典・式次第 》

- 司会：西日本放送(株) 鴨居 真理子
1. 式 辞 香川大学学長 上田 夏生
 2. 挨 拶 経済学部長 長山 貴之
又信会会長 対馬 健三
 3. ご来賓祝辞 文部科学省国立大学法人支援課
課長補佐 小川 優
香川県副知事 大山 智
高松市市長 大西 秀人
 4. ご来賓紹介
 5. 祝電披露

《 記念祝賀会・式次第 》

1. 開会の辞
2. 寄付金贈呈
3. 鏡開き
4. 乾杯の挨拶
5. 余興
6. 閉会の辞

■ 記念式典

式 辞

香川大学
学 長 うえ だ なつ お
 上 田 夏 生



今日の良き日、ここに香川大学経済学部 創立100周年記念式典を挙行できますことは、大学として大きな喜びでございます。ご多忙の中、ご臨席賜りました、文部科学省高等教育局 国立大学法人支援課 課長補佐の小川 優（おがわ・すぐる）様、香川県副知事 大山智（おおやま・さとし）様、高松市長 大西秀人（おおにし・ひでと）様をはじめ、日頃から本学にご支援いただいています自治体関係者の皆様、経済学部をはじめとする本学の卒業生を受け入れいただいている企業の皆様など、多くのご来賓の皆様、誠にありがとうございます。本学の教職員、及びご出席の卒業生や元・教職員の方々とともに、本日の記念行事が記憶に残るものとなりますよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

香川大学は、昭和24年（1949年）5月に香川師範学校・香川青年師範学校を母体とした学芸学部、高松経済専門学校・高松高等商業学校を母体とした経済学部の2学部で発足しました。経済学部の母体となりました高松経済専門学校・高松高等商業学校は、大正12年（1923年）12月10日、第12高等商業学校官制の制定に基づき、官立高松高等商業学校として創立され、そこから起算しますと本年12月で、ちょうど創立100周年を迎えることとなります。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝しております。

本日は、この記念式典に先立ち、総合教育棟で、主に経済学部の学生を対象として、記念講演会を開催いたしました。講師は、経済学部33回卒の宝田圭一（たからだ・けいいち）様にお願いしました。宝田様は2000年に株式会社 川六の代表取締役役に就任されて以降、自社をはじめ数々のホテルを再生され、中四国、九州に出店を加速されています。ご自身の大変貴重なご経験をお話し下さり、誠にありがとうございました。

さて、本学では、「地域に根ざした学生中心の大学」をめざし、県内唯一の国立大学として、これまで各界に優れた人材を送り出してまいりました。卒業生の皆様が築いて来られた本学の輝かしい歴史をさらに発展させるべく、香川大学が近年、取り組んでいる改革について、そのいくつかをご紹介します。

まず、学部教育におきましては、新たな価値を創造できるイノベーション人材の育成を柱に掲げ、その一環として平成30年4月に大幅な学部改組等を行いました。創造工学部の設置をはじめ、経済学部においては、それまでの3学科制から1学科5コース制へと改組を行いました。

大学院においても改革を進め、令和4年4月に、これまでの教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、工学研究科の人文社会学系と工学系の4研究科を母体とし、さらには地域マネジメント研究科との連携により、実践知としてのマネジメント能力やビジネスマインドの涵養を視野にいたした研究科として「創発科学研究科（修士課程）」を設置いたしました。

さらには、令和6年4月から、「創発科学研究科（博士後期課程）」の設置が認可され、合わせて同研究科の修士課程を博士前期課程に改めることになっています。この「創発科学研究科（博士後期課程）」においては、博士（学術）、博士（工学）、博士（危機管理学）の3つの学位を授与することとしており、教育学・法学・経済学・工学のいずれかの学問領域を主軸としながら、複合的な分野において学術・研究がなされた場合には、博士（学術）を授与することとしており、本学の念願でありました人文社会学系を含む博士課程がついに実現する運びとなりました。

このような新しい大学院において、経済学部は重要な役割を担っていただいております、経済学部が築いてまいりました100年の歴史と伝統を基盤として、激変する社会のニーズに応えられるよう、教職員一同、さらに精進いたします。

最後に、本日ご参加くださいました皆様に、改めて感謝申し上げます。本学は、皆様のご支援とご協力なしには成り立ちません。本学の更なる発展、母校の輝ける未来のため、引き続き、温かいご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げ、私の式辞とさせていただきます。



ご挨拶

香川大学

経済学部長

なが やま たか ゆき
長 山 貴 之



本日は香川大学経済学部創立100周年記念式典にご参列いただき、誠にありがとうございます。経済学部の教職員を代表いたしまして、厚く御礼を申し上げます。

香川大学経済学部は、全国で12番目の高等商業学校である高松高等商業学校として大正12年12月に設立されました。その後、昭和19年4月に高松経済専門学校に名称変更され、昭和24年5月に香川大学経済学部に移行いたしました。昭和24年当時の学生定員は1学年130名でしたが、昭和27年には140名となり、これが昭和38年まで10年以上続きました。昭和39年には第一次ベビーブーマーへの対応の第一弾として、学生定員が増員されましたが、昭和30年代までは比較的小規模な学部であったことが分かります。

この草創期には、昭和25年から昭和33年まで4回に分けて旧本館が建設されました。平成20年の大規模改修を経た今でも、経済学部長室はこの建物にあります。また、経済学部長室の備品のいくつかは当時のままです。

昭和40年には経営学科が新設され、経済学部は経済学科と経営学科の2学科体制となりました。この時、学生定員は220名まで増員されました。昭和42年に経済学科が拡充された後、昭和46年には管理科学学科が新設され、経済学部は経済学科、経営学科、管理科学学科の3学科体制となりました。この時、学生定員は280名まで増員されました。

この発展期には、昭和43年に旧1号館が建設されました。令和元年の大規模改修を経た今でも、経済学部の学生はこの建物で講義を受けています。

その後も改組は続き、平成7年には学生定員が490名にまで達しましたが、様々な紆余曲折を経て、現在では250名まで縮小しています。すでに昭和40年代後半よりも学生定員は少なくなっております。

昭和40年代後半といえば、第二次ベビーブーマーが生まれた頃です。昭和46年から昭和49年までの4年間は、毎年200万人以上の子供が生まれました。令和4年に生まれた子供は77万人余りに過ぎません。そして、今後も出生数の減少は続くものと思われます。地方国立大学にとりましては誠に厳しい時代となります。

現在、香川大学経済学部には5つのコース、経済・政策分析コース、会計・ファイナンスコース、経営・イノベーションコース、観光・地域振興コース、グローバル社会経済コースが設けられています。これらのコースには定員が設けられておらず、学生は入学後に自分の好きなコースを選ぶことができます。5つのコースのうち、経営・イノベーションコースには50%以上、観光・地域振興コースには20%以上の学生が所属しています。

ここで問題となるのは、香川大学経済学部の今後の在り方です。経済学部ですから経済学の基礎教育を行うのは当然ですが、カリキュラムの中心に経営や地域振興の要素を据えなければ、将来の18歳人口の急減期に学部の存続が危ぶまれるように思います。

また、現在の社会状況を鑑みれば、外国語教育と数理・データサイエンス教育の強化は不可欠です。最近の卒業生アンケートを見ると、これらの教育が不十分であることが如実に表れています。大学在学中に外国語や数理・データサイエンスをもっと学んでおけばよかったという回答が非常に多いのです。

以上のことを勘案すれば、香川大学経済学部の将来像は自ずと明らかになるように思います。経済学の基礎教育を施し、経営や地域振興の要素をカリキュラムの中心に据え、外国語教育と数理・データサイエンス教育を強化していくほかに道はありません。容易ならざる道ではありますが、地域社会の皆様や卒業生の皆様のご助言を賜りながら、教職員一同精一杯取り組んで参る所存です。今後も変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

ご挨拶

又信会

会 長

つし ま けん ぞう
対 馬 健 三



このたびは、母校、香川大学経済学部創立100周年 誠におめでとうございます。

又信会、卒業生一同、心よりお慶びを申し上げます。

香川大学経済学部は1923年（大正12年）12月10日高松高等商業学校として創立以来、27,800名以上の卒業生を輩出しています。

100年という長い歴史の中には、先の第2次世界大戦で、昭和20年7月に高松空襲により校舎の8割以上が焼失し、善通寺の兵舎に移転するといった苦難の時代があり、学徒動員により南方戦線へ送られ、173名戦死者を出した悲しい出来事もありました。

11月11日、創立100周年記念行事として、100周年記念碑を建立致しました。香川県の穏やかな山並みや瀬戸内海の波模様をモチーフにして庵治石で製作したモダンなデザインの記念碑です。記念碑の内側にはタイムカプセルのごとく経済学部の教育理念『進取の気象』と『共生の精神』の言葉を刻み込んでいます。

設置場所は卒業式や入学式が行われる講堂の近くの総合教育棟の前です。卒業式、入学式の前後で学生が記念碑のまわりで記念写真を撮ってもらえると嬉しいです。

同窓会としての又信会は全国に19の支部があり、私は会長として学部長と共に各地支部総会に出席していますが、経済学部の卒業生は製造業、金融業、建設業、情報・IT企業、公務員、卸売・小売業など、社会のありとあらゆる分野で活躍されています。

私は卒業して50年以上になりますが、当時と比べて大きく異なること、1つは女子学生が増えて、現在約半数が女子学生だということです。私の時代は220名中、女子学生はたった5名でした。2つ目は授業料が物凄く高くなって、現在は53万5,800円だそうです。当時は年間12,000円、月1,000円という安さでした。

逆に私達の時代には無かったこと、それは2010年に始まった新しい取り組み、経済学部学生チャレンジプロジェクトです。

大学で単に学問を学ぶだけでなく、経済や経営に関する専門知識を活かして、学生が自ら考え、行動して地域社会に貢献する取り組みです。

現在16あるプロジェクトの1つ、『屋島山頂ちょうちんカフェ』を見て参りました。

弘法大師が伝えた香川の伝統工芸である日本最古の讃岐提灯の魅力伝えるワークショップを屋島山頂に昨年完成した「やしまーる」で開催し、隣の「れいがん茶屋」でちょうちんが一杯飾られた『ちょうちんカフェ』を運営していました。

屋島山頂の駐車場から屋島寺を通り、やしまーるに至る道のりには、ちょうちんで灯かりを照らし、会場では多くの人で賑わっていて、運営する経済学部チャレンジプロジェクト（TERASU）の学生の礼儀正しい応対と明るい笑顔での接客が、屋島山頂から見おろす美しい高松の夜景と相まって、素晴らしいプロジェクトだと感動しました。

さて、あることがきっかけで外国人留学生と知り合いになりました。彼はベトナム、ホーチミン出身の留学生で、経済学部4年生です。彼のお姉さんが日本に留学していて、お姉さんから日本の話をよく聞かされて日本に留学したいと思ったそうです。

ではなぜ、お姉さんは東京へ留学したのに、彼は香川大学経済学部を選んだのか！

彼は作文にこう書いていました。「インターネットで日本の色々な大学の情報を調べる中で香川大学経済学部が目に残りました。香川大学経済学部は長い歴史と伝統を持ちながらも、常に時代に合わせて進化して多様な分野の教育と研究が行われており、国際交流も盛んで、留学生へのサポート体制もしっかりしており、安心して勉強できる環境だと思います、香川大学経済学部を選びました。

入学してから大学での勉強だけでなく香川県の食べ物・風景・祭りやイベント・課外活動も私にとって貴重な経験でした。その中で香川大学の高松市瀬戸内漁港でのクリーンアップ活動は最も印象的でした。この活動を通して地域社会に貢献することはもちろん、海洋環境や資源について学ぶことができました。また、この活動には様々な国からの留学生や日本人が参加しており国際交流やコミュニケーション能力やチームワークなども身につけることができました。そして、日本の美しい自然や文化を守ることの大切さを感じさせてくれました。

経済学部で過ごした4年間は、私の人生観や価値観を変えてくれて、私にとってかけがえのない4年間でした。香川大学経済学部に入學して本当に良かったと心から思います。」……彼は、卒業後は日本に残ってベトナムと日本の為に働きたいと言っていました。

ところで、近年の少子高齢化に伴い学生数が年々減少し、統計によりますと昨年、私立大学では定員割れの大学が半数を越える事態となり、文部科学省は大学の統合・再編の方針を打ち出しています。地方の国立大学も例外ではなく受験生の減少による大学間の競争に打ち勝つ為特色ある大学への変革が求められています。

我が香川大学経済学部が100周年を機に新たな未来へ踏み出すのにあたり創立以来の伝統を守りつつ、現在も行われている教育改革を更に推し進めて、四国の国立大学で経済学部が有るのは香川大学だけであるという特性を活かして、今後とも魅力ある経済学部になる進化をされますようお願いして止みません。

最後になりましたが、創立以来100年間の長きにわたり、経済学部の運営に多大なるご尽力を頂きました歴代学長、学部長、教職員の皆様に深く感謝申し上げますと共に、母校、香川大学経済学部の今後益々のご発展と、本日ご参列の皆様方のご健康ご多幸を御祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございます。



記念式典



ご来賓



司会・西日本放送 鴨居真理子 氏



祝賀会



寛前学長の乾杯の挨拶



長山経済学部部長
対馬又信会会長
上田学長
寛前学長
石川又信会副会長



大分大学
経済学部部長 高見博之様
(株)川六
代表取締役 宝田圭一様
文部科学省高等教育局
国立大学法人支援課
課長補佐 小川 優様
高松市副市長
中林大典様
小樽商科大学
副学長・商学部長
鈴木将史様



小豆島町長
大江正彦様
さぬき市教育長
和田浩二様
東かがわ市長
上村一郎様
観音寺市副市長
挽田公孝様
三豊市副市長
綾 章臣様
まんのう町副町長
長森正志様



学生チャレンジプロジェクト Steeepの発表



TERASU（讃岐ちようちんで香川の魅力を照らすプロジェクト）の発表



合唱団による紫雲寮寮歌と逍遙歌の合唱

左側が
穴吹常務理事



龍雲相撲甚句会による相撲甚句の発表

香川大学経済学部 創立100周年記念碑



庵治石 細目 使用（幅170cm 高さ150cm）『デザイン・制作 アキホタタ』
香川県の穏やかな山々や、瀬戸内海の波模様の柔らかな曲線をモチーフ。
赤・青・黄の3本線は太陽の光・・・いつまでも経済学部を見守り照らしてくれることを祈念。



記念碑裏面のメッセージ銘板



内側に経済学部の教育理念「進取の気象」
「共生の精神」の文字が刻み込まれています

記念碑除幕式

令和5年11月11日 総合教育棟（旧1号館）前



謝辞 長山貴之経済学部長



献辞 対馬健三会長



除幕
長山学部長
青木副学部長

対馬会長
石川副会長



法学部長就任のご挨拶



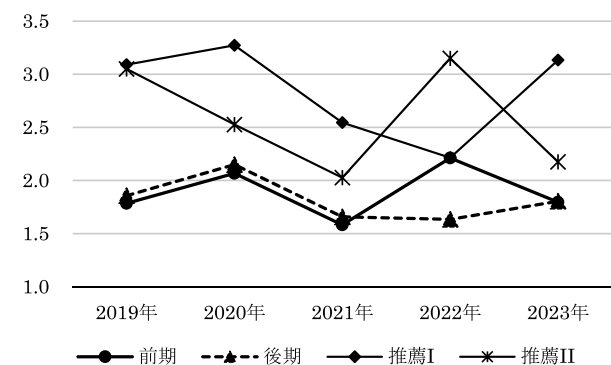
法学部長
堤 英 敬

このたび法学部長に就任いたしました堤英敬と申します。任期は、令和5年10月1日から令和7年9月30日までの2年間となります。専門は政治学で、おもに選挙や政党政治の研究を行っております。また、これまで法学部では、「政治過程論」と「政治行動論」という科目をおもに担当してまいりました。浅学非才ではございますが、法学部長としての務めを微力ながら尽くして参りたいと考えておりますので、又信会の皆様からのご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

さて今回は、おもに「入口」と「出口」という観点から、法学部の現状と取り組みについてご報告させていただきたいと思っております。まず、「入口」に関してですが、過去5年間の実質受験倍率（受験者数÷合格者数）の推移は図1の通りとなっています。法学部の入試は、前期日程（定員75）、後期日程（定員35）、大学

入学共通テストを課さない学校推薦選抜（推薦Ⅰ、定員10）、大学入学共通テストを課す学校推薦選抜（推薦Ⅱ、定員30）の4種類が行われていますが、ここ数年の受験倍率は、前期日程、後期日程が約1・6～2・1倍、推薦選抜が約2・0～3・3倍で推移しています。2018年度以前は、本学部の受験者数は増加傾向にあり、ピーク時には2・7倍（2018年度の前期日程）を記録したこともありましたが、その頃と比較すると本学部の「人気」は低迷していると言わざるを得ません。また、前年の受験倍率が高いと翌年の受験倍率は低下するとい

図1 実質受験倍率の推移（2019～23年度）

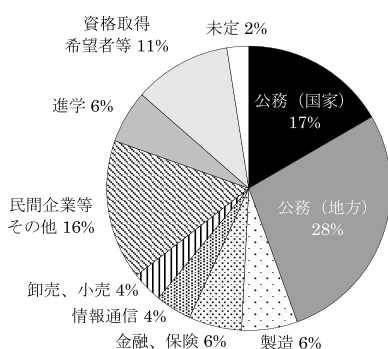


うように、年度ごとの変動も大きくなっています。「法学部人気」は全国的に低下しているとも言われており、一喜一憂する必要はないかもしれませんが、少子化のさらなる進行が予想される中、安定的な受験者確保は喫緊の課題と考えられます。法学部は他学部と比較すると（こ

こ2年ほどは増加傾向にありますが）香川県内の高校からの出願者・進学者が少ないのですが、こうした点を踏まえると、今後は地元からの進学者を増やすための取り組みが必要だと言えるでしょう。これまでも、高校生を対象とした懸賞論文を募集したり、近隣の高校の先生方と意見交換を行う会を開催したりしてきましたが、今後、いっそう香川県内や近隣各県の高校との連携を深めていきたいと考えています。

次に「出口」ですが、過去5年間の進路の概況を図2に示しました（割合は5年間の累計で算出しています）。香川大学法学部はこれまで、他の地方国立大学の法学部と比較すると国や地方の行政機関に進む卒業生が少なく、民間企業等に就職する卒業生が多い傾向にありましたが、最近では公務員になる者が増加し、卒業生の半数近くを占めるようになりました。なお、公務の内訳を見ると、国の行政機関（おもに国の出先機関）へ進む者と地方（県や市町村）に就職する者

図2 法学部生の進路（2018～22年度）



の比率は、概ね4・6となっています。これに対して、以前は半数近くを占めていた民間企業等への就職者は、ここ数年、1／3程度へと減少しています。就職先の業種は多種多様ですが、一言で言えば、製造業や金融業・保険業といった分野に進む卒業生が多くなっています。就職先の所在地については、香川県が約3割、岡山県が約2割、香川県以外の四国が1割、近畿が1割といった内訳になっていました。これは入学者の出身地の内訳と近い分布であり、県外から香川大学法学部に進学した学生たちは香川で大学生活を送った後、出身地へと戻って就職しているケースが多いことを示唆しています。県外から香川大学に進学した学生が卒業後、香川で就職してくれば、様々な意味で香川県に多様性をもたらしてくれるでしょう。県外出身者の県内就職率を高めることも、今後の課題の一つと認識しています。

ところで、毎年、入学時に実施しているアンケート調査によれば、例年、約半数の新入生が将来、公務員になることを希望しています。もっとも、一口に公務員といっても様々な職種がありますから、実際に進路を選択する際には、自分がどのような公務員になりたいのかをよく考える必要があります。しかしながら、公務員を志望する学生にその動機を尋ねてみると、「安定しているから」、「地元で働きたいから」といった漠然とした理由を挙げる場合が少なく

ありません。こうした問題認識から法学部では、本学部のOB・OGを中心に、香川県、岡山県内の地方自治体や裁判所、検察、警察といった行政機関の職員の方をお招きして、業務内容や仕事のやりがい、求める人材などについてお話ししていただくとともに、公務員志望の学生と交流するイベントを実施したり、公務員試験に合格した4年生に体験談を語ってもらう会を開催したりしています。

卒業後の進路という点では、法学部には、裁判官や検察官、弁護士といった法曹の養成という役割も期待されていることは言うまでもありません。法曹になるためには司法試験に合格しなくてはなりません。司法試験は原則として法科大学院を修了した者が受験できることになっています（今年度からは在学中の受験も可能になりました。また、予備試験に合格した者も受験できます）。ただ、香川大学には法科大学院が設置されていないため、法曹を志望する学生は他大学の法科大学院に進まなくてはなりません。こうした背景もあって、入学時には2割ほどの学生が法曹を含めた法律専門家となることを希望している一方で、（法科大学院以外も含めた）進学者の割合は約6%にとどまっています。こうした状況を改善すべく、法学部では本年度から、大阪大学、広島大学、岡山大学の法科大学院と連携して「法曹プログラム」を開始しました。法曹プログラムとは、連携先の法

科大学院の法学既修者コースの教育課程と接続した段階的、体系的な教育課程のことで、法科大学院の基礎的な教育内容を法学部の教育へと取り入れるとともに、法文書作成などの応用的な科目も開設しました。また、法曹プログラムを担当する教員を複数配置し、受講学生に定期的にアドバイスを送るといった支援も行っています。このプログラムを修了することで、連携先の法科大学院に特別選抜で進学する道が開かれ、大学入学から最短5年で司法試験を受験することが可能になりました。今年度は16名の学生が法曹プログラムを受講していますが、一人でも多くの学生が法曹になるという目標を実現できることを願っています。

ここまで、「入口」と「出口」という観点から法学部の現状と取り組みについてご紹介してきましたが、私たちとしては、法学・政治学の素養を備えた専門職業人として、また、民主主義を支える公共的市民として社会に貢献できる人材を育成すべく、法学・政治学教育に全力で取り組むとともに、学生たちが卒業後、自分の能力を存分に発揮できるよう支援を行っていきたくと考えております。今後も引き続き、又信会の先輩の皆様からご協力、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

【特集】

経済学部ゼミナール

連合協議会のご紹介

委員長 東 山 まどか

日頃より本協議会の活動へのご理解とご協力をありがとうございます。

香川大学経済学部ゼミナール連合協議会、通称経済ゼミ連は、学生が運営する経済学部の自治的組織です。現在は、4年生5名、3年生19名、2年生10名、1年生13名の計47名で活動しています。幹部メンバーとして委員長、副委員長、4名の部署長で構成し、各委員は、渉外部、渉外部、広報部、会計部の4つの部署に所属しています。大学職員の方々や企業の人事担当者様と連携を取りながら、主に本学経済学部生向けの就職支援活動を行っています。また、オープンキャンパスの運営や学内企業説明会にも携わっています。本稿では今年度の活動について述べさせていただきます。

今年度の活動状況についてです。5月にエントリートシート作成講座、7月にはインターンシップ対策講座を3年生向けに実施し、多くの学生の就職活動をサポートいたしました。講座後のアンケートにて参加してみたい講座などを募

り、それらを踏まえて、後期には月に1度のペースで就職活動を支援する講座を開催いたしました。8・9月には2月に開催される学内合同企業説明会に向けて、部員一人一人が担当企業を持ち、人事担当者様との連絡をとります。学



内企業説明会では、約10の企業様がブースを設けて説明を行う「合同企業説明会」と、各企業様が講義形式で説明を行う「個別企業説明会」の2種類があり、毎年約40社の企業様にご参加頂いています。かつては対面形式で行っていましたが、近年はZoomを利用したオンラインでの企業説明会を実施しています。

特に、今年度は昨年度以上に多くの活動に携わることができました。様々な制限が緩和され始めたことで、多くの企業様からセミナー開催やインターンシップのご案内をいただきます。今年度は新たに、就活用のメイクアップセミナーや26年卒向けのセミナーを開催いたしました。就職活動の早期化に合わせて、本学学生のニーズに適したタイミングでセミナーの機会を提供

できるように心がけております。セミナー開催にあたり、予約フォームの作成や広報などの多くの仕事がありますが、幹部メンバーから各社員へと仕事を割り振る形式をとっています。そのため、1年生から企業様と関わる機会を得ることができ、大学生活の早い段階で責任感を持つことや役割を果たすことの重要さを学ぶことができます。私の実体験として、これらの経験は自分自身の言動の自信に繋がります。恐ろしく言動を起こすことができているのは、本協議会での活動があるからです。先日、このように活発に活動ができていることが功を成し、代表としてFM香川への出演が叶いました。本協議会の活動が大きく注目される機会は多くはありません。そのため、このような貴重な機会をいただけたことで、学外の方へも本協議会について知っていただくことができたと思います。また、今年、香川大学経済学部は100周年を迎えました。それに際し開催された創立100周年記念行事にもご協力させていただきます。



た。さらに、例年開催されている又信会通常総会や大阪支部総会、東京支部総会へもお招きいただき、本協議会や経済学部に関するご講演の機会をいただきました。本協議会に所属していることで、企業様だけではなく、多くのOB・OG様と直接関わることができ、ありがたいお話をいただく度に身も心も引き締まる思いでいっぱいです。このような機会へお声がけいただけることは、本協議会で意欲的に活動をしてきた先輩方のおかげであると強く感じております。本協議会の歴史に恥じないように責任感を持って活動し、後輩に良い手本としての背中を見せて、今後も長く活動できるように願っています。

改めまして、経済ゼミ連では経済学部生の就職支援について様々な活動を行っています。企業の方々と間接的でありながらもコミュニケーションを図ることや、各部署が役割を果たすことで得る達成感は、経済ゼミ連ならではの経験です。また、これらの経験が多くの場面で役立っています。就職支援活動以外にも多くの場で活動ができますのは、学内・学外を問わず支えてくださる方がいることはもちろんのこと、自主的に本協議会に加入し、見返りを求めず尽力してくれている部員のおかげです。委員長として至らない点も多いですが、やさしく見守ってくださいるすべての方々に感謝しております。これから引き続き、様々な支援を行っていきたくと考えておりますので、あたたかく見守って

いただけますと幸いです。今後もよろしく願っています。



法学部ゼミナール

連合協議会のご紹介

執行部 山 端 勇 輝

私たち香川大学法学部ゼミナール連合協議会（略称：法ゼミ連）は、「法学部生による自治組織」として、現在では三年生五名、二年生七名、一年生一三名の計二五名で又信会・教職員の方々の厚いご支援・ご協力を受けながら日々活動しております。今年度の一年生は一三名が新しく加入し、ここ数年では最大規模の人員となり、例年以上に活気が溢れています。

法ゼミ連は、三年生が主として所属する中央部と一・二年生が主として所属する執行部とに分かれ、中央部では公務員・民間志望者に向けたガイダンス等の運営を中心に、また執行部では履修登録相談会や新入生交流会といった学内イベント等の運営を中心に活動しております。この度は、又信会の会報誌に寄稿させていただける大変貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。この場をお借りして、今年度に行われたものを中心に活動報告させていただきます。法ゼミ連の活動に関しまして、より多くの方に知っていただくと幸いです。

まず、今年度初めに行われたものとして履修登録相談会と小豆島新入生交流会をご紹介します。

ていただきます。

履修登録相談会

とは、法ゼミ連が毎年主催している新入生向けに行っている企画のひとつです。入学式を終えたばかりの新入生にとって最も悩ましく思うものと言え、履修登録がまず初めに挙げられるのではないのでしょうか。本稿を執筆しながらですが、「履修登録」という単語を聞くと、現在二回生の私にも新入生のころの苦労した記憶が思い出されます。大学では多種多様な講義を自由に選択できる反面、多すぎる選択肢に戸惑ってしまう事態に陥ってしまうのも事実です。そのような新入生の不安を少しでも解消しようという趣旨で企画されたのが履修登録相談会です。新入生も履修登録の相談はもちろんです。が、大学生活から一人暮らしの不安まで幅広く法学部の上回生と相談することができ、毎年大変好評の企画となっております。

続いて小豆島新入生交流会についてご紹介させていただきます。小豆島新入生交流会はかつて小豆島での新入生歓迎合宿として実施されておりましたが、新型コロナウイルスの影響を受



け、昨年度までは休止という形を取らざるを得ませんでした。今年度では、法ゼミ連はこの新入生歓迎合宿を小豆島新入生交流会という日帰りの形として新しく復活させようと試みました。数年ぶりの実施ということもあり、不安に思う側面もありましたが、総勢百名以上の新入生にご参加いただき、新入生にとっては大変良い交流会になったのではと感じております。当日は雨風で天候こそ恵まれませんでしたが、室内でのレクリエーションや新入生同士の食事、小豆島オリブ公園内での自由散策を通して新入生間の距離も交流会前と比べて大きく縮まったように思います。法ゼミ連の四月は、この二つの大きな企画を機にスタートしました。

そして、直近の八月に香川大学法学部オープンキャンパスが実施されました。こちらも先ほどの小豆島での新入生歓迎合宿と同様に新型コロナウイルスの影響を受け、昨年度までは休止とまではいかずとも、開催形式を大きく制限せざるを得ませんでした。ですが、今年度は例年通りの形式で実施することが可能になりました。当日は酷暑にもかかわらず、多くの方々にお越しいただき、普段は静穏な雰囲気



醸し出している法学部棟もこの日は大きな盛り上がりを見せることとなりました。法学部紹介をはじめとして、展示や幸町キャンパス内を巡るキャンパスツアーが実施されましたが、いずれも多く

の方々にご参加いただきました。高校生の方々を中心に香川大学法学部についてより多く知っていただけたのではないかと感じております。

以上、今年度に法ゼミ連が実施した活動について簡単なものではございますが、ご報告させていただきます。末筆ではございますが、私たち香川大学法学部ゼミナール連合協議会が日々充実した活動を行うことが可能となっているのは、香川大学の教職員の方々の、そして又信会の皆様の厚いご支援・ご協力があつてこそのもに他なりません。私たち香川大学法学部ゼミナール連合協議会はいくつかから「法学部生による自治組織」として、香川大学法学部での学生生活がより良いものとなるよう、活動させていただく所存です。どうか皆様、これからも香川大学法学部ゼミナール連合協議会をよろしく願いたします。

